

優良事例 段ボール規格標準化による物流業務効率化 新潟花き中継拠点化検討協議会

標準化に関する実装事業

【構成組織】(株)新花、(株)なにわ花いちば、(株)仙花、大阪フラワーサービス(株)、(株)IFN、新潟日植運輸(株)、光運輸(株)、全国農業協同組合連合会新潟県本部、新潟かがやき農業協同組合、新潟県、新潟市

事業概要

<背景>
 ・2024年問題にあたって、荷積み荷降ろしにかかる荷役作業の効率化が急務となっており、特に、ストックポイントにおける効率化が必要となっている

<課題>
 ・過去に統一規格の段ボール導入を検討したが、現状の段ボールが、台車とパレットの両方に使える段ボールのサイズではなかったため、実現には至らなかった

- ・ **統一規格段ボール導入による物流改善の実証**
- ・ **統一規格段ボールの流通（活用）拡大に向けた課題抽出調査**

目標

- ・ 2028年度中には、1か所におけるドライバー一人あたりの手荷役時間を3年後に30%削減（平均1時間から、平均0.7時間に減少させる）を目標とする。

従前

流通体系（旧）

産地 新潟県内 → 中継拠点 新花 → 卸先/出荷先 仙花、なにわ花いちば、その他（大田市場など）

段ボール規格が異なるため、

- ・ 標準パレットパレタイズが難しい
- ・ 荷役作業の負担大

課題

- ・ 新潟県内4産地で使用しているチューリップ用の段ボール規格はそれぞれ異なるため、荷役作業が非効率的である。

流通体系（新）

産地 新潟県内 → 中継拠点 新花 → 卸先/出荷先 仙花、なにわ花いちば、その他（大田市場など）

統一規格の段ボールにより、

- ・ 標準パレットパレタイズが容易に
- ・ 荷役作業の負担が削減

利点

- ・ 産地それぞれに実証実験用の段ボールを配布し、当該段ボールにて出荷。
- ・ 段ボール規格が統一されているため、荷役作業が効率化及びドライバーの拘束時間削減に繋がる。

今年度取組の成果

全体成果: 荷役作業の効率化及びドライバーの拘束時間削減、標準パレットの活用促進

効果: ドライバーの荷役時間 1時間 → 50分程度 (12%程度削減)

課題: 段ボールの統一規格の最適化

今後の取組

一部の産地の段ボールに別の産地も同じものを使って物流効率化可能か検討、物流・出荷双方で使いやすい段ボール規格の検討継続等

実証

異なる規格によるパレタイズ

統一規格によるパレタイズ①

統一規格によるパレタイズ②